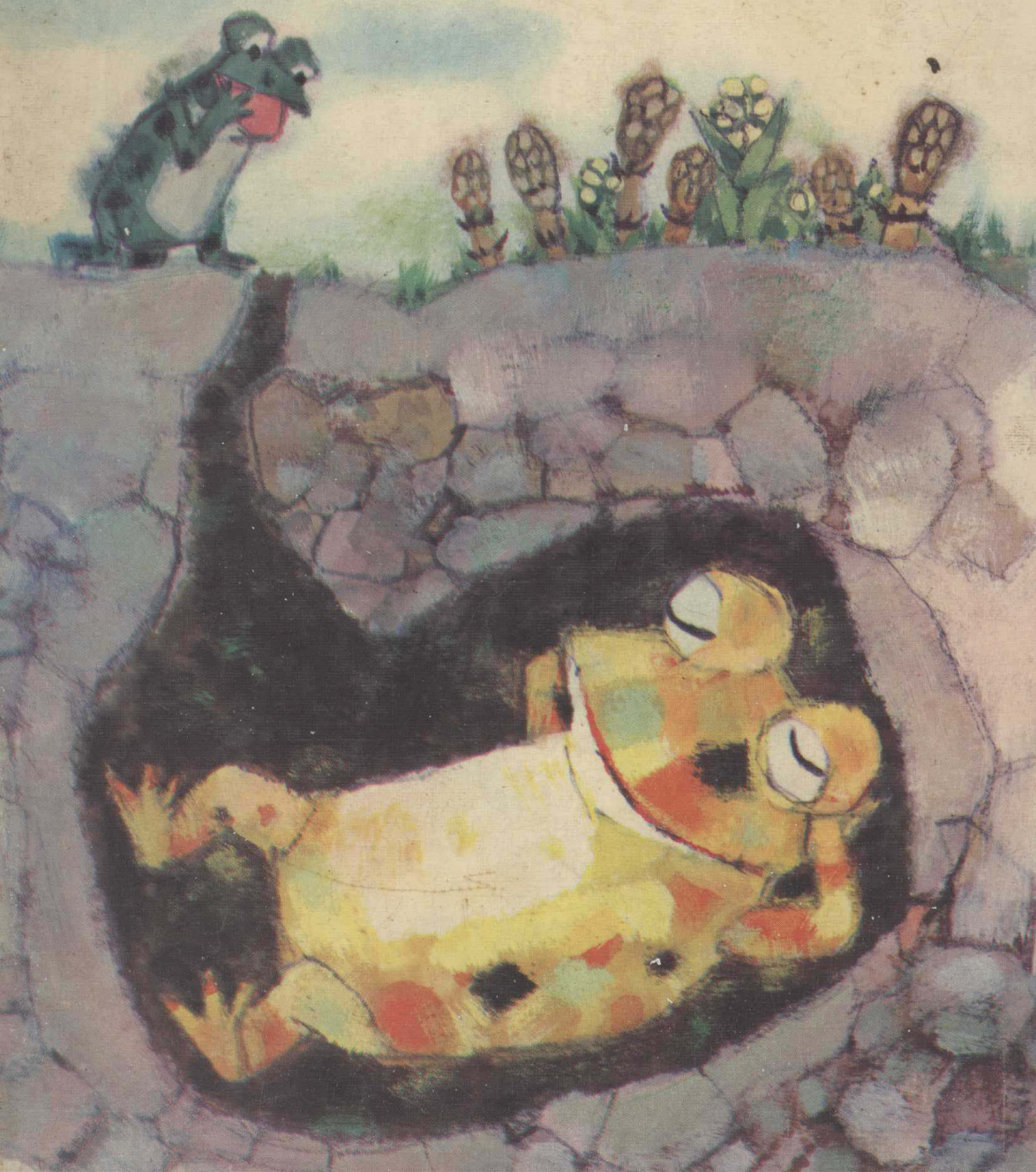


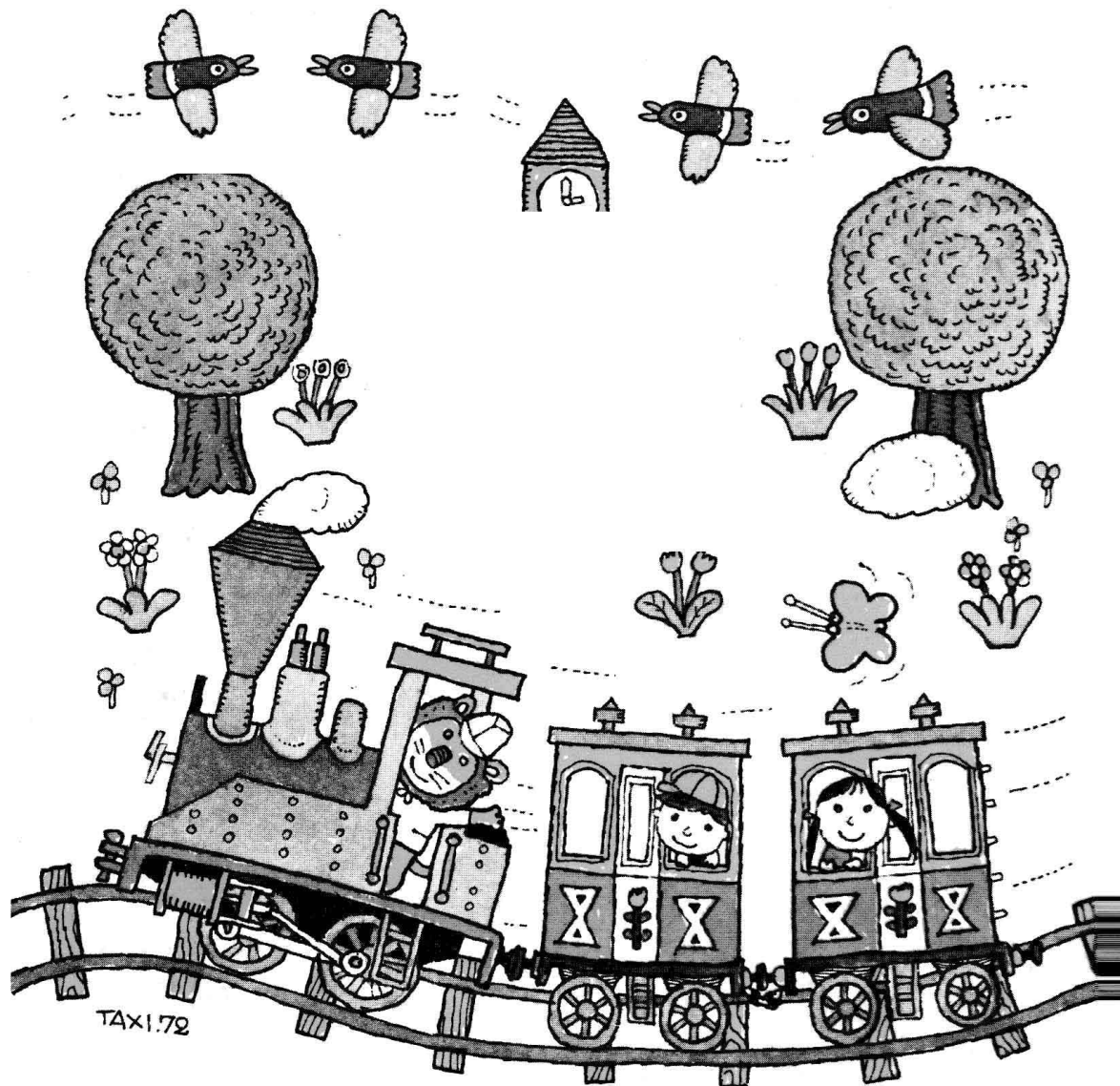
二ひきのかえる

よんでおきたい物語
子どもの文学研究会編



二ひきのかえる

よんでおきたい物語 3
子どもの文学研究会編



子どもの文学研究会

二ひきのかえる

ポプラ社 昭和51 (1976)

222p 22cm(よんでおきたい物語 3)

【分類】 908

8090-021003-7764

よんでおきたい物語(3)

昭和36年7月15日 初版 ㊟

二ひきのかえる

昭和51年4月30日 16版



編 者 こ子どもの文学研究会
発行者 久保田 忠 夫
印刷所 誠文社印刷所

株式会社 ポ プ ラ 社

発行所

東京都新宿区須賀町5・振替東京149271番

(三進製本)



はじめに

草^{くさ}ばなや 動物^{どうぶつ}たちと 話^{はな}せたらと 思^{おも}うことが
あります。

この 世^よの中^{なか}に、いじめっ子^こや いじわるが
いなければ いいなあと 思^{おも}うことも あります。

国^{くに}と 国^{くに}とが けんかを して いるなんて、
なんて おかしなことだろうとも 思^{おも}います。

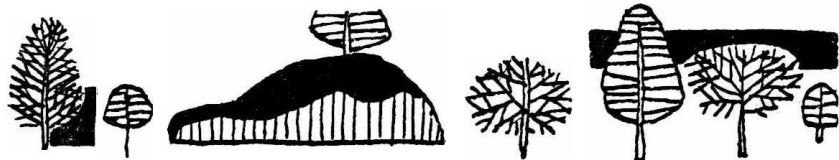
みんな みんな、なかよしに なりたいなあ。

もつと もつと、ひろい、大^{おお}きな 心^{こころ}の 人^{ひと}に

なりたいなあ。

と、思^{おも}いませんか。





もくじ

知らない子……………宮沢章二……………八

ライオンとこいぬ……………マフ・トルストイ作
馬上義太郎訳……………二〇

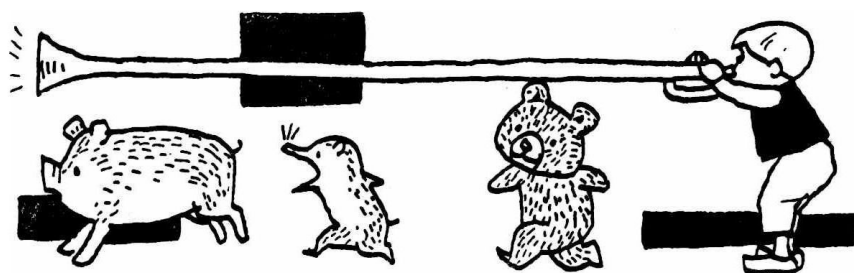
きよねんの木……………新美南吉……………一八

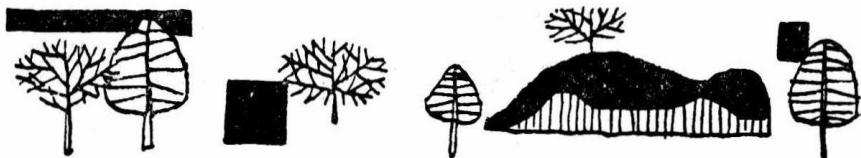
石のはしの上……………平塚武二……………二四

金いろのクレヨン……………後藤梢根……………二六

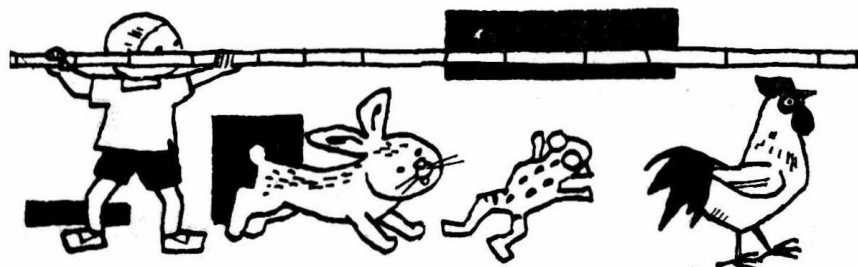
はな……………新美南吉……………三六

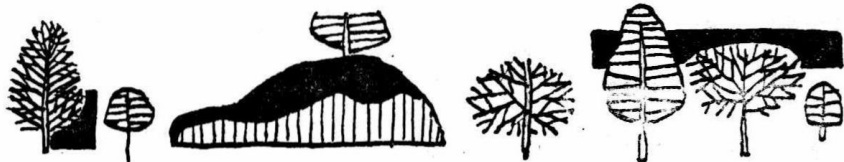
トムとジム……………大石真……………四四





二ひきの	かえ	もぐらの	おしくら	すべりだい	あしたは	にさんの	しんにゆうせい	とおせんぼう
かえる	る	おじぎ	まんじゅう	い	てんきだ	たべる	い	い
.....						パン		
.....								
新	横	浜	水	横	岡	奈	北	浜
美	山	田	谷	本	本	街	原	田
南	ト	廣	ま	楠	良	三	白	廣
吉	ミ	介	さ	郎	雄	郎	秋	介
七	七	六	三	夫	吉	四	三	夫





ぶたの子……………与田 準一…一〇四

こ い ぬ ……………伊 東 文 雄…一〇六

くにざかいの うりばたけ ……………中国のおはなし
伊藤 貴磨 訳…一二五

ひろった ラッパ ……………新 美 南 吉…一二三

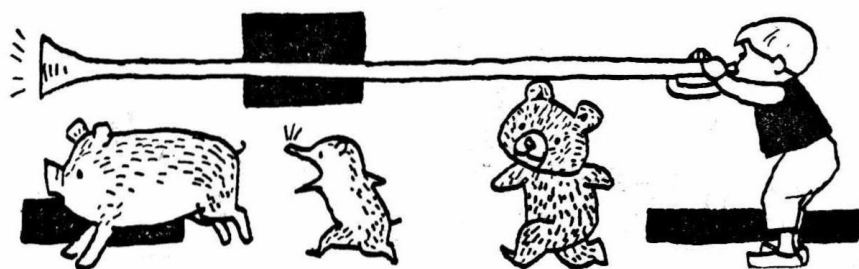
おとうさんの どうわ ……………林 芙 美 子…一二七

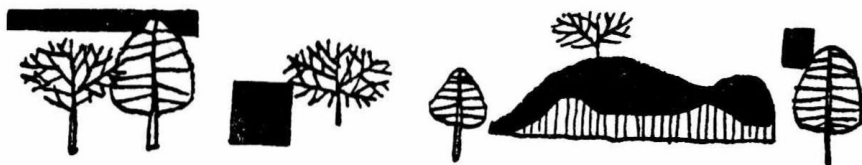
むぎばたけの なかよし ……………大 木 雄 二…一三〇

うれしいな ……………清水 た み 子…一三二

やぎと さくらの 花 ……………猪 野 省 三…一三六

うぐいすぶえを ふけば ……………新 美 南 吉…一三八





もえる しま 佐々木 たづ 二七

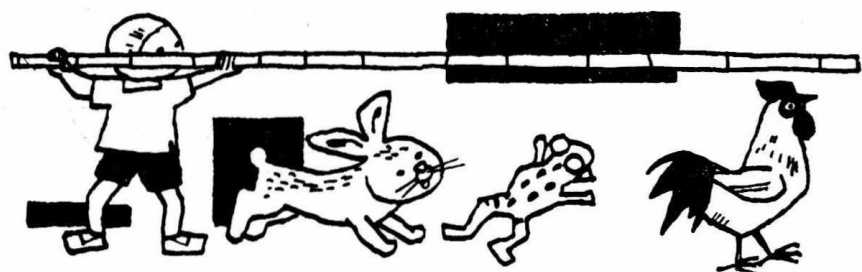
白^{しろ}い くびわ プリシピン 作^{さく} 二七
馬^ま上^{がみぎ}義^{たろう}太^{たろう}郎^{ろう} 訳^{やく} 二七

えん そく 巽^{たつみ} 聖^{せい} 歌^か 一四

黒^{くろ}い きこりと 白^{しろ}い きこり 浜^{はま}田^だ 廣^{ひろ} 介^{すけ} 一六

おかあさんと先生^{せんせい}のために 馬^ば場^ば 正^{まさ} 男^お 二〇

は この え
さく ち え
水^{みづ}
野^の
二^じ
郎^{ろう}



編集代表者

馬場正男

編集委員

松山市造

山口正重

土田治男

野村純三

加藤達馬

大西貢

桑原三郎

波辺俊介

近藤晋二

赤坂包夫

野村兼嗣

横山昭作



よんでおきたい物語 3

二ひきのかえる



子どもの文学研究会

知らない 子。

宮沢 章二

知らない 子^こだけど わらったよ

かきねの そばで わらったよ

よぼうと おもって でて みたら

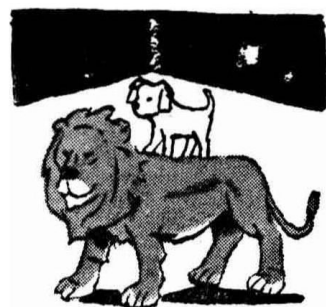
かきねの かげに かくれたよ

知らない 子^こだけど あそんだよ



かきねの そばで あそんだよ





ライオンと　こいぬ

レフ・トルストイ作
馬^ま上^{がみ}義^ぎ太^た郎^{ろう}訳

ある日、一匹きの　こいぬが　こどもに　おわれて　みせものごやに　に
げこみました。そして、むちゅうで　ライオンの　おりの　なかに　もぐり
こんで　しまいました。

ライオンが、むっくりと　おきあがりました。

こいぬは、おりの　すみに　ちぢこまって　ふるえて　いました。

ライオンは、こいぬの　そばに　ゆっくり　ちかづいて　きて、においを
かぎはじめました。こいぬは、ころりと　ひっくりかえると、足^{あし}を　あげ、

しっぽを ぴよこぴよこ
ふって みせました。

ライオンは、こいぬを
ちよいと つついて こ
ろがしました。

こいぬは おきあが
ると、こんどは、ライ
オンの まえに す
わって ちんちんを
して みせました。

ライオンは、こ
いぬを そのまま

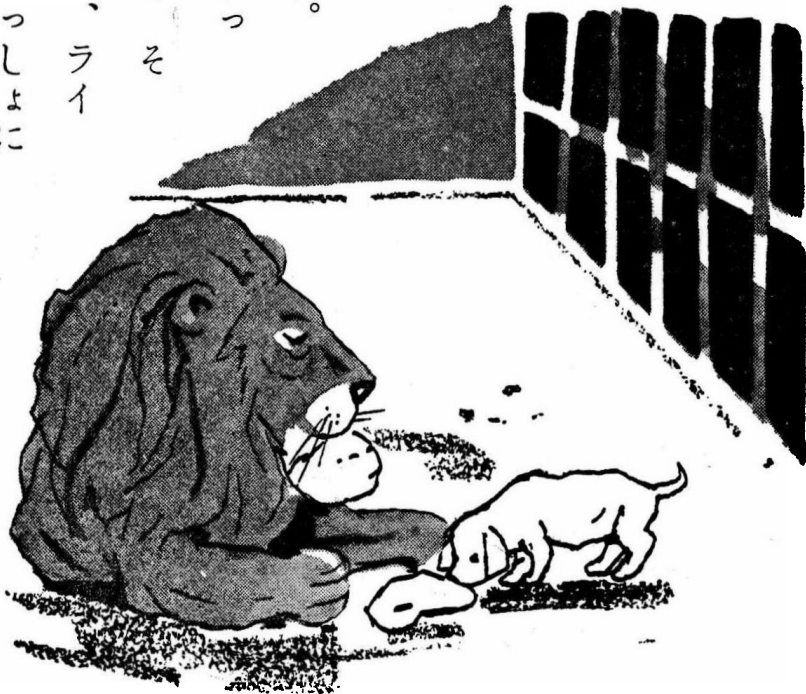


に して おきました。

みせものごやの おやかたが
かけつけて きて、にくを
りの なかに なげこんだ
きにも、ライオンは にくを
ひとときれ くいちぎって、こい
ぬに わけて やりました。

そのうちに よるに なりました。

ライオンは ごろりと よこになっ
てねて しまいました。こいぬも そ
の そばに きて よこになると、ライ
オンの 足を まくらに して、いっしょに





ねて しまいました。

こうして こいぬは、ライオンと
ひとつ おりの なかで くらすよう
になりました。ライオンは、こいぬ
を かわいがり、いつも こいぬと
いっしょに えさを たべ、いっしょ
に ねました。ときどき こいぬの
あいてに なって あそんで やる
ことも ありました。

ある日、こいぬの しゅじんが み
せものごやへ けんぶつに きました。
そして、ライオンの おりの なかに

いる　じぶんの　いぬを
みつめました。

しゅじんは、みせもの
ごやの　おやかたに、じ
ぶんの　いぬを　かえし
て　くれと　たのみまし
た。

おやかたは、いぬを　お
りから　だそうと　おもって、いぬの　なまえを
よびました。

すると、いきなり　ライオンが　こいぬの　まえに　たちふさがり、けを
さかだて　はげしく　ほえたてました。ですから、とうとう　こいぬを　お

